



第4次アクションプラン 全国の農業高校の新戦略 グローバル・アグリカレッジ宣言Part II			自校のカレッジアクションプラン						
農業高校の ミッション (目指す学校像)	行動計画 (目指す学校像の具現化に向 けて)	キーワード	学科名	本年度重点取組	具体的方策(5W1H明記、数値目標奨励(年度末ABCDE評価の根拠))	SDGs 目標 NO.	評価 (ABC DE)	次年度の主な課題	
農業高校 グローバル アグリカレッジ宣 言  ○○○○○ 地地地地グ 域域域域口 防交環社 災流境会力 をのを・ル 推拠守産教 進点り業育 と創にで るな造寄人 学るす与材 校学るすを 校学る育 校学て 校る学 学校	1	学生一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育	卒業研究	全体	発表会における討論の充実を図る。	卒業研究発表会における、学生の討論を7割目標に指導を行う。	4	C	質疑・討論を発展させ、発表会の充実を図る。
	2	世界と日本をつなぐグローバル教育	グローバル教育、国際交流	全体	講義の充実を図る。	講義、実験・実習における異国文化に触れる機会を各科1回/年、設定する。 中国語検定1級の全員合格を目標に指導する。	5・10 5・10	D A	海外研修と専攻科講師陣等、異国文化に触れる機会を設定する。 続けて全員合格を目標にする。
	3	地域農業の生産を支える教育	生物生産、経営	生物生産科	卒業生講話で現状を知る。	農業従事者や関連産業の卒業生講話を1回/年は設定し、現状を理解させる。	8	A	講話を充実させ現状理解をする中で、学生のキャリア形成を行う。
	4	地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育	HACCP	食品工学科	チェックリストの作成を行い、実施する。	農場予算品目におけるHACCPのチェックリストを作成し、毎回学生に実施させる。	3・12	C	チェックリストの改善・学生への意識づけを行う。
	5	地域環境を守り、創造する教育	循環型農業、循環型社会	全体	専門分野の知識の理解を図る。	専門科目での未生物資源利用について知識の定着を図り、次年度に向けての研究項目(1研究/専攻)を考える。	1・2・12・15	B	各専攻テーマで循環型の農業・社会を形成する取り組みを行う。
	6	地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育	地域資源活用、特産物、地域交流、食農教育	全体	自彊研究の充実を図る。 学生の発信の場を図る。	農教研会誌の個人研究に毎年3研究は寄稿する。 実験・実習の内容を、オープンキャンパスや学園祭(展示、体験講座)を通して全学生発信する。	4 4・10	D A	自彊研究として個人研究を行い、寄稿する。 研究、実験・実習のアウトプットの場を設定・充実させ、発揮できるようにする。
	7	Society5.0の時代に合った教育	ICTを用いた学習	全体	機器を活用した講義の充実を図る。	各実験・実習でICT機器を用いた講義の導入に向け、前・後期1回以上実施する。	4・10	D	機材・環境の整備を行う中で効果的な講義の充実を図る。
	8	地域防災を推進する教育	多面的機能	生物生産科	「グリーンツーリズム演習」の充実を図る。	簡易かまどの演習を3回/年行い、自炊の技術向上を図る。	11	A	災害時の対応技術の向上を図る。

※本プランは全国農業高等学校長協会「第4次アクションプラン」の規定により、各学校ホームページにて公表、年度末に福岡県教育委員会に報告します。また、福岡県農業教育研究大会誌にも毎年掲載(情報共有)します。

★作成・提出の流れ

①各学科は「行動計画1～8」のうち必ず1つ以上「本年度重点取組」「具体的方策」を記載する。②毎年度始めに「本年度重点取組」「具体的方策」を各学科全職員、次に農務部全職員で協議して作成し、4月30日までに校長会第1研究委員会事務担当者に提出及び各校のHPに掲載する。③毎年度末に「評価」「次年度の主な課題」を各学科全職員、次に農務部全職員で協議して作成し、2月10日までに校長会第1研究委員会事務担当者に提出及び各校のHPに掲載する。④令和8年10月から本取組についての検証を行い総括する。

★「評価ABCDE」の基準：A90～100%の成果を得られた B70～89%の成果を得られた C40～69%の成果を得られた D10～39%の成果を得られた E0～9%の成果を得られた